

編集後記

さる7月12日、北海道の白老町<sup>しらおい</sup>に国立アイヌ民族博物館を含むウポボイ（民族共生象徴空間）がオープンした。本号の特集ではそれを記念して「ウポボイでアイヌ文化を魅せる」を組んだ。ところで、白老町と聞いて、その位置が思い浮かぶ読者はどれくらいいるだろう。白老町は、支笏湖<sup>しこつ</sup>の南、苫小牧市と登別市のあいだにある太平洋に面した町である。古くからアイヌの人びとが暮らし、そこには以前、ポロトコタンと呼ばれる、立派なアイヌ民族博物館とチセ（住居）や土産物店などの諸施設があった。ウポボイはポロトコタンという前史をもつ、まさに象徴的な空間なのである。読者の皆さんには、ぜひ「ポロトコタン 最後の一日」（2018年、企画・制作：一般財団法人アイヌ民族博物館、22分50秒）という傑出した映像作品をウェブ上で見てからウポボイを訪ねてほしい。静謐<sup>せいひつ</sup>なポロト湖の風景もまた違ったものにつながるに違いない。

ポロトコタンには4頭のヒグマが飼われており、パイプから与えるおやつを器用に食べる姿が印象的だった。佐々木史郎館長によると、そのヒグマは幸いにも英国のヨークシャー野生動物公園に引き取られたそうだ。ウポボイはポロトコタンや旧アイヌ民族博物館の何を継承し、何を新たに創りだしていくのか。特集の各論稿からはその使命感と気概が伝わってくる。（南真木人）

2020年8月号、P16に掲載しておりました「極北の衣装（男性用）（上着：H0212848、手袋：H0212849、ズボン：H0212850、靴：H0212851）」の資料は、資料管理のため展示されていません。

●表紙：伝統芸能上演（鶴の舞）（提供：公益財団法人 アイヌ民族文化財団、2020年）

次号の予告

特集

「世界の地相術」（仮）

みんぱくをもっと楽しみたい方のために  
国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。

毎月『月刊みんぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

維持会員・正会員

『月刊みんぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

ミュージアム会員

『月刊みんぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できるみんぱくフリーパスや、学校・学部単位で利用できるキャンパスメンバーズなど各種会員種別もご紹介します。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話 06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)



月刊みんぱく 2020年9月号

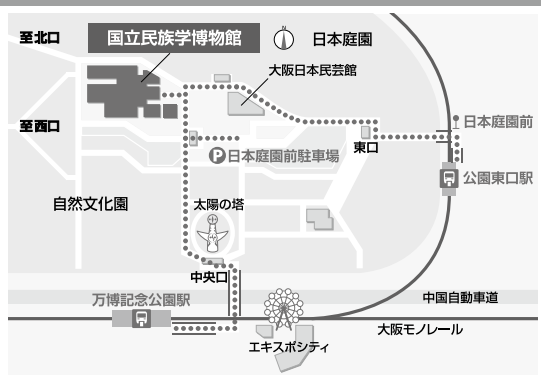
第44巻第9号通巻第516号 2020年9月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子  
編集委員 南真木人（編集長） 上羽陽子 齋藤晃  
菅瀬晶子 三島禎子 吉岡乾

デザイン 宮谷一欵 長岡綾子  
制作・協力 一般財団法人 千里文化財団  
印刷 株式会社 遊文舎

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。  
\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

みんぱくフェイスブック  
みんぱくツイッター  
みんぱくインスタグラム  
みんぱくYouTube

<https://www.minpaku.ac.jp/>

<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>